



PORT INC.

# 将来収益込みEBITDA に関する補足説明資料

ポート株式会社 証券コード：7047

2023.5.17

## 本資料の立ち位置

2023年5月12日開示の中期経営計画及び今期の業績予想の発表と同時に、当社が新たな業績指標に追加した「将来収益込みEBITDA」について、投資家の皆様からのご質問が大変多く、また、当社からご説明情報が不足していたと認識いたしまして、再度内容の詳細説明をさせて頂く為の補足開示となります。

## サマリー

1

中期経営計画の達成及び中長期のEBITDA最大化に向けて、ストック収益比率を上昇させることが将来の継続的な成長の蓋然性を高めると認識しています。

2

エネルギー領域における各取引案件を精査した結果、ショット収益よりもストック収益のほうが総収益が高いものを限定し、ストック収益に切り替えています。

3

先行投資といった側面ではありますが、あくまでも将来にわたって獲得することが非常に高い確率で見込める収入になるため、不確実な投資ではありません。

4

一方で、ストック収益(契約)にどこまで切り替えていくかという点については、連結業績が増収増益（売上 + 21%、EBITDA + 10%）を前提とした上で、将来収益を強化するという方針にしています。

5

24年3月期も23年3月期と同様のショット収益中心であった場合は、業績予想は売上収益144億円 + 27%、EBITDA28.5億円 + 30%であるため、成長率の鈍化ではなく、あくまでも契約形態の変更による影響となります。

2023年5月12日付で開示している「中期経営計画に関する資料」の通り、以下の方針を掲げ実行していく。

## 長期方針

フリーキャッシュフローの最大化



## 中期経営計画方針

中長期のEBITDAの最大化

### オーガニック投資

巨大市場において、テクノロジー×リアルによる成約支援事業のポジションを確立させ、シェア拡大を継続可能な状態にする。

## 中期成長戦略

### 収益の ポートフォリオ化

増収増益を前提に、収益のポートフォリオ化を図るためにストック収益を重視し、継続的な成長の蓋然性を高める。

### インオーガニック投資

シングル事業で100億円の早期実現に向けて、既存事業or新領域への積極的かつ大規模なM&A、新規事業開発を実行する。

## 増収増益を前提とした大胆な投資の実行

本期間中においては、増収増益を前提とするものの、長期のフリーキャッシュフローを獲得していくためにも、成約支援事業というポジションの確立にむけたオーガニック投資、インオーガニック投資、収益のポートフォリオ化など、将来を意識した投資を大胆に実行。

## 将来収益込みEBITDAを主要指標に追加

収益構造をショット型収益だけでなく、ストック型収益比率を増加させることで成長の蓋然性を高めていく。そのため、当期のEBITDAに加えて、今期獲得した将来生まれる利益(本来は当期に生まれていた利益)を合算した「将来収益込みEBITDA」を主要指標に追加。

## M&Aの対象をロールアップ<sup>o</sup> or 新領域に原則限定

M&Aについては、現在の既存領域、特に人材、エネルギー領域におけるロールアップM&Aか、全体の業績に最低10%以上の影響を及ぼす新領域への大規模なM&Aに集中。

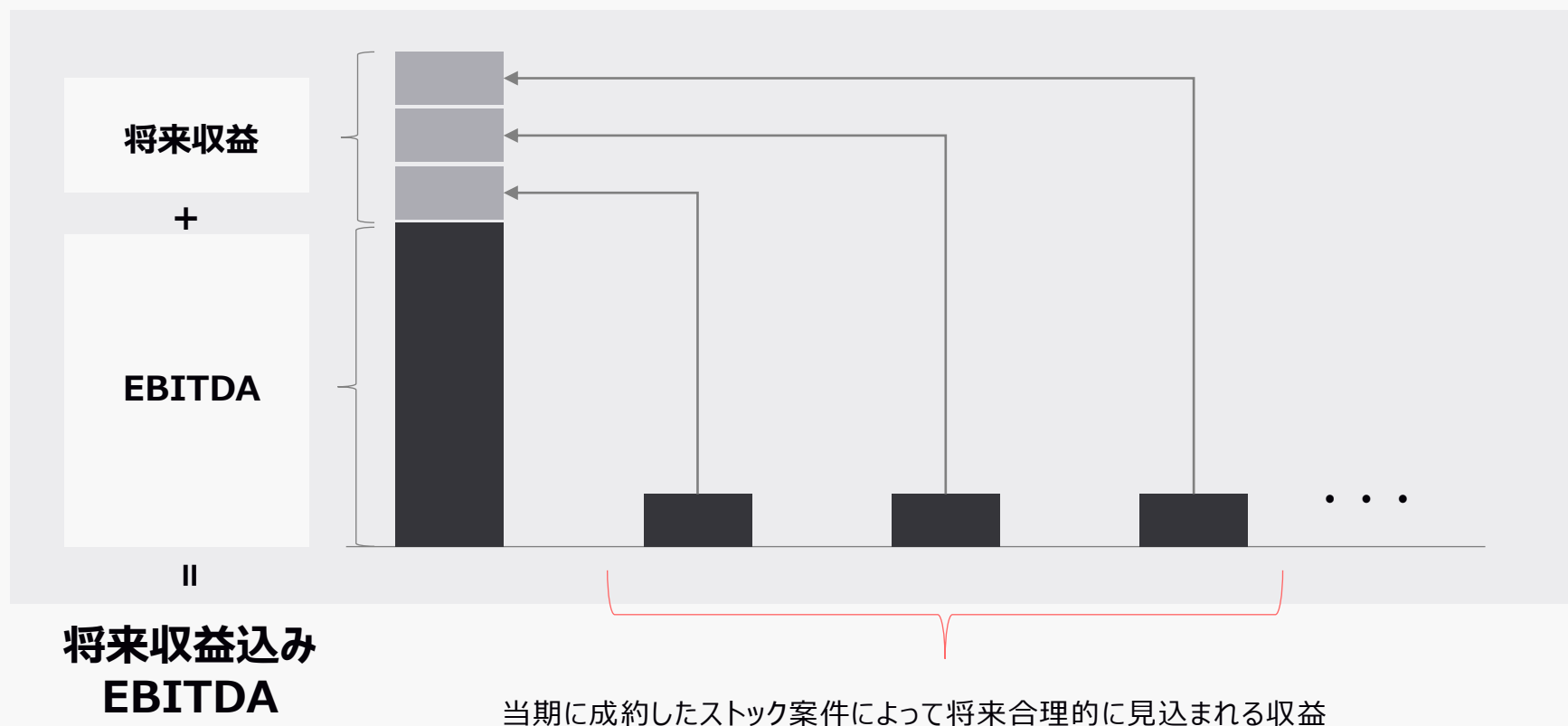
## 投資方針を明確にした経営システム

既存事業、新規事業含めて、会社全体の業績シェア10%以上、継続的な30%成長が実現可能な事業に経営資源を集中投下する方針。高い成長を維持していくための各社、各事業のモニタリング体制の強化。

## 機動的なコーポレートアクションの実行に向けた開示方針

上記をはじめ、さまざまなコーポレートアクションをスピーディーに実行していくことで、最終年度の業績計画を達成するため、当期における四半期業績計画、2期目の業績計画、各事業別業績計画については非開示を予定。

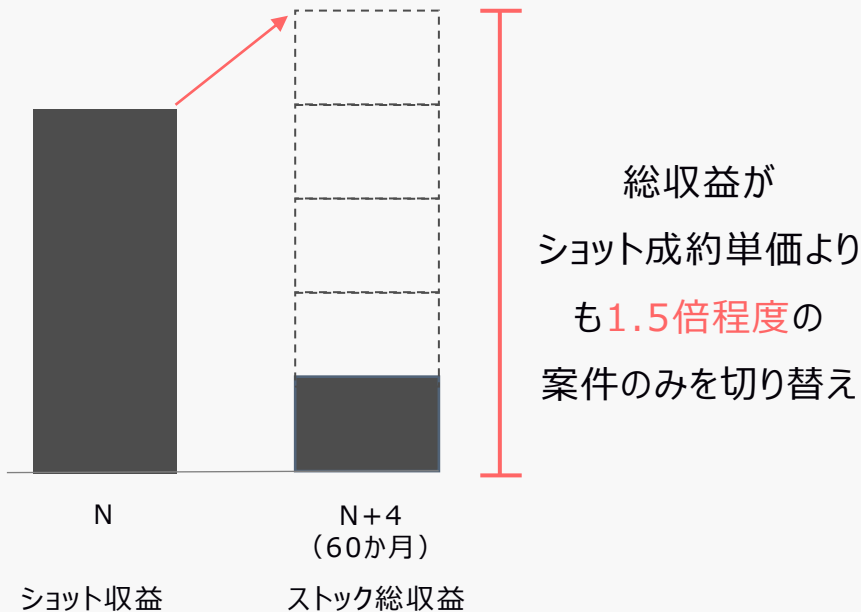
- 将来収益込みEBITDAとは、通常のEBITDAに加え、当期に成約したストック案件に関して、現状の解約率等から合理的に見込める将来収益をEBITDAとして当期に獲得したものとして合算。
- 本来のショット型収益契約であれば当期に計上されていたものであるという観点から、これまでのEBITDAに近いものと認識。



## 将来収益込みEBITDAとは②

各事業者の過去の解約率等を勘案し、算定をした結果、ストック契約切り替えによる5年（60か月）の総収益が約1.5倍程度となる案件をストック契約へ切り替える方針で策定。※5年以上もユーザーの継続状況によっては収益が見込まれる。

### 切り替え方針



### 主な切り替えパターン

1

これまでショット収益だった案件  
をストック契約へ移行

2

新規契約ケースにおいて、  
ショット契約orストック契約で算定し、  
総収益で上回る案件をストック契約

# 2024年3月期通期業績予想

再掲

PORT INC.

増収増益を前提に、大規模に投資に実行。特にストック収益比率の増加を中計最終年度で目指し、重点的にストック型に契約を移管。結果、将来収益込みEBITDAでは30%成長を維持する方針。

(百万円)

	2024年3月期 通期業績予想	2023年3月期 通期実績	YoY
売上収益	13,800	11,357	+21%
EBITDA	2,230	2,026	+10%
将来収益込みEBITDA	2,850	2,185	+30%
営業利益	1,900	1,715	+10%
税引前当期利益	1,850	1,675	+10%
当期利益	1,375	1,247	+10%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,200	1,089	+10%

※2023年3期までEBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 株式報酬費用

※2024年3期からEBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 固定資産除却損及び評価損益 + 株式報酬費用

※将来収益・・・1成約によって将来生まれる総収益。本来当期に計上されていたものを将来にわたって計上していくものであることから、当社の実力値は「将来収益込みEBITDA」によって図るべきものとする。



## 2024年3月期通期業績予想（将来収益込みEBITDA勘案後）

将来収益込みEBITDA勘案後だと売上収益も前年同期比 + 27%の伸びとなり、売上、EBITDAともに30%成長の目線感となる。24年3月期も23年3月期と同様での契約構成（ショット契約中心）だとした場合は、売上成長収益 + 27%、EBITDA + 30%となります

(百万円)

	2024年3月期 通期業績予想	2023年3月期 通期実績	YoY
売上収益（将来収益込みEBITDA勘案後）	14,420	11,357	+27%
EBITDA	2,230	2,026	+10%
将来収益込みEBITDA	2,850	2,185	+30%

将来収益込みEBITDAは  
エネルギー領域における影響のみ

※2023年3月期までEBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 株式報酬費用

※2024年3月期からEBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 固定資産除却損及び評価損益 + 株式報酬費用

※将来収益・・・1成約によって将来生まれる総収益。本来当期に計上されていたものを将来にわたって計上していくものであることから、当社の実力値は「将来収益込みEBITDA」によって図るべきものとする。

## 将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。
- これらは現在における見込み、予想およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

PORT INC.

社会的負債を、次世代の可能性に。